

# 同窓生

(48)

H14.9.2



▲人生も盛りの40代の頃

新5同生 麻生雅子氏  
(1953年卒)

1957~94年TBSにてアナウンサー・DJ・TV制作等担当

十五才という年齢は大  
人になるための大事な一  
時期である。中学から短  
大までの女子学校に入れ  
られていた私は、このま  
までは何の為に生きてい  
るのかわからない、そう  
だ今年から男子校に入れ  
るそうだから受け直して  
みよう、新宿高校受験  
を思い立った。十五才の  
大決意である。  
親も賛同してくれ、案  
外簡単に入学出来たのだ  
が、そこは難解なる語彙  
を自在に操る人達が生息  
する異世界だった。しか  
し、ここが漠然と憧れ求  
めていた未知の世界であ  
ることにすぐ気がついた。  
これこそわが知的好奇心  
を満たしてくれるパラダ  
イス、と純情可憐な乙女  
は喜んだが、まもなく、

特別考査なる試験に打ち  
負かされ、壁に張られた  
数十人の名前は威嚇する  
かのように私を見下ろし  
た。早くも、諦めの境地  
に突入する。  
学問はさておいて、と、  
まわりを見回せば、初め  
て出会った男子生徒のな  
んとも素敵なこと！ス  
ラリと伸びた足で走り回  
るアポロたち、目を輝か  
して政治経済・美術を語  
る若きソクラテス、詩歌  
を語るバイロン、ハイ  
ネ、素晴らしい男性がた  
くさん居るのだ。  
ふと、将来の事を考え  
たとき、こんな素晴らし  
い人達の中から結婚相手  
を一人だけ見つけて共  
暮らすのは難しいのでは  
ないかと思った。これは  
ヤバイ、仕事を持って自  
立して生きていかれるよ  
うにしておかなければと  
決意したのだ。取り立て  
て才能が有るわけでもな  
く進路に悩む私に、恩師  
チンコロ先生の「大学で  
教職課程を取れば何とか  
なるさ」とのアドバイス。  
それを信じて、早稲田の  
教育学部に入學した。と  
ころがまたまたプロブレ  
ム、私が新宿高校の先生  
達から紡いだ理想とする  
教師像と、世間が求める  
教師像とは合致しないの  
だ。そこで教職は断念し、  
就職活動に悪戦苦闘する  
ことになる。  
生来の怠け者の私に向  
いていそうと考えた職が、  
アナウンサー。幾局も受

けては落ちを繰り返し、  
何とか潜り込めたのが、  
KRT(今のTBS)だ  
った。厳しい養成期間を  
経て新米アナウンサーと  
なり、いつしか仕事にの  
めりこんでいった。ラジ  
オの深夜番組がスタート  
し、音楽番組のDJや番  
組構成を楽しみながらこ  
なすうちに十五年間が過  
ぎた。もっと主体的に番  
組作りをしたいと、希望  
してTVのプロデューサ  
ーに転身、歌番、クイズ、  
開基、そして奥様広場と  
いう家庭経済を基盤とし  
た珠玉のような十五分の  
教養番組を長く担当する  
ことが出来た。ゴールデ  
ンアワーばかりが番組で  
はない。地味ではあるが  
品の良いものを作れたこ  
とを大変幸せに思ってい  
る。  
人様の知恵と知識をお  
借りしなければ良い番組  
を作ることはできない。  
番組の企画を通して各界  
の素晴らしい方々にお会  
い出来、知遇をえた。高校  
時代からの悪友を含め、  
時の積み重ねで熟成した  
豊かな人間関係は、金銭  
では贖えず、歳をとるこ  
とならではの数少ないメ  
リットであり、「若さの  
持つ可能性」に対抗しう  
るものだと思う。  
そして「若さの持つ可  
能性」に幾分嫉妬しなが  
ら、若き人々がなにか成  
し遂げてくれることを期  
待したい。